

開かれた議会づくり検討小委員会報告書

令和6年12月18日

神奈川県議会 開かれた議会づくり検討小委員会

当会議において次の事項について検討した結果を、次のとおり報告する。

【検討事項】

主権者教育の推進のための大学生を対象とした取組について

1 趣旨

地方議会議員選挙の投票率の低下、議員のなり手不足や性別・年齢の偏りなどが大きな課題となっている中、地方議会に対する理解と関心を深め、多様な人材の参画を促すための取組を、地方議会が自らも行っていくことが求められている。

こうした中、令和6年6月25日に、開かれた議会づくりのための広報委員会委員長（議長）から、若者が地域や政治への関心や意欲を持てるように主権者教育を推進するため、新たに大学生を対象とした取組について検討するよう、当小委員会に依頼があり検討を行ったものである。

2 検討経過

- 令和6年6月25日 検討事項の確認及び今後の検討スケジュールについて検討
9月17日 検討事項及び検討の視点を整理
9月26日 県内の大学から意見を聴取すること及び県議会議員と県内大学生との意見交換会を試行実施することについて協議・決定
10月8日 意見を聴取する県内大学及び主な聴取事項並びに県議会議員と関東学院大学の大学生との意見交換会の詳細について協議・決定

（10月中旬～11月下旬 県内大学への意見聴取を実施）

- 11月18日 県議会議員と関東学院大学の大学生との意見交換会に係る説明会を開催
11月29日 県議会議員と関東学院大学の大学生との意見交換会を開催
12月5日 県議会議員と関東学院大学の大学生との意見交換会の検証及び検討結果の方向性について協議
12月18日 報告書案について提示
12月18日 報告書案について協議・決定

3 検討の視点

全国都道府県議会議長会が設置した「多様な人材が輝く議会のための懇談会」からの提言を参考に、大学生を対象にした次の取組について検討を行うこととした。

- (1) 大学生に県議会・議員への関心・意欲を高めてもらうための取組
- ・ 県議会議員と大学生との意見交換会
 - ・ 大学を会場とする「特別委員会・議会報告会」
 - ・ インターンシップを活用した議会体験・議員との意見交換
 - ・ 議長等による議会・議員活動に関する大学での出前講義 など
- (2) 大学生向けの広報等の充実を図るための取組

また、検討に当たっては、学生数や学科数の多いいくつかの県内の大学からの意見を聴取することとした。

4 県内の大学への意見聴取の実施

- (1) 実施期間 令和6年10月中旬～11月下旬
- (2) 実施大学 県内4大学（関東学院大学、東海大学、横浜国立大学、神奈川大学）
- (3) 聴取内容 大学生の地方議会や政治への関心の現状について
大学生に県議会・議員への関心・意欲を高めるための取組について
大学生向けの広報等の充実を図るための取組について
大学生の意見等を把握するための取組について
その他

(4) 聴取結果 （詳細については【資料1】に記載）

※ 括弧書きで大学名が示されていない意見は複数の大学からの意見。

ア 大学生の地方議会や政治への関心の現状について

- ・ ほとんどの大学生にとっては、県議会及び県議会議員は遠い存在である。
- ・ 接する機会がないことや県議会及び県議会議員に関する知識が少ないため、関心は薄い。

イ 大学生に県議会・議員への関心・意欲を高めるための取組について

(ア) 県議会議員と大学生との意見交換会について

- ・ 多くの大学生は、地方議会（県議会や県議会議員）への関心が低いため、新たな取組を進めるにあたっては、少しでも地方政治や地方行政に関心のある学生（法学部や政治経済学部等の学生やゼミ）から始めて、徐々に取組を広げていくことが良い。
- ・ 大学生に関心を持ち続けてもらうためにも、大学生との意見交換会のような取組を継続して行っていくことが大切である。
- ・ 単なる意見交換ではなく、一定のテーマを定めて、KJ法を用いたグループワークを議員と大学生が一緒に行う方法にした方が有効ではないか。

（関東学院大学）

- ・ 学生と教員が一緒になって地域課題の解消の方策などを、ボードゲーム方式で探っていくプログラムを開発し授業で実施している。議員も参加して一緒に議論してもらえれば、地方政治や議会への関心がより高まると思う。

（横浜国立大学）

(イ) 大学を会場とする「特別委員会・議会報告会」について

- ・ 学内の諸会議に諮る必要があるため、あらかじめ早い段階から相談・調整してもらう必要があるが、大学を会場として実施することは可能である。

(ロ) インターンシップを活用した議会体験・議員との意見交換について

- ・ 議会の開催期間との関係では、大学の夏季休暇期間中の9月上旬に実施するのが良い。
- ・ いきなり政治家を目指す学生は、ほとんどいないとので、公務員を志望する学生向けに、議会局の仕事のインターンをメインにして、その中で、議会傍聴や議員との意見交換などを盛り込むのが良いと思う。

- (エ) 議長等による議会・議員活動に関する大学での出前講義について
- ・ 既に、県知事との包括連携協定の中で、法学部において、議長による講義の時間を毎年設けている。(関東学院大学)
 - ・ 県知事との包括連携協定に基づき、知事や県職員による講義枠を設けているので、県担当所属との調整がつけば実施の余地がある。(横浜国立大学)

ウ 大学生向けの広報等の充実を図るための取組について

- ・ 学生向けの広報ツールについては、SNSや広報誌、ホームページなどがある。
- ・ 大学との共催イベントや、大学内で議会報告会を行う等の場合には活用いただいても良いかもしれないが、あまり効果としては期待できない。
- ・ 学生全体に広くというよりも、ターゲットを絞って周知する方が良い。

エ 大学生の意見等を把握するための取組について

- ・ 県議会議員と学生との意見交換会やワークショップなどにおいて、聞きたい事項をテーマにして実施すれば良いのではないか。

5 大学生との意見交換会の試行実施

検討を進めるに当たり、関東学院大学法学部の協力により、ワークショップ形式による「県議会議員と関東学院大学の大学生との意見交換会」を試行として実施した。

- (1) 実施日時 令和6年11月29日(金)午後4時から6時30分まで
(2) 実施場所 神奈川県議会 議会大会議室
(3) 参加者

【県議会】 柳下剛議長、近藤大輔副議長
(開かれた議会づくり検討小委員会)
おざわ良央座長、大村悠委員、相原しほ委員、
吉川さとし委員、おだ幸子委員、日浦和明委員
(関東学院大学出身議員)
いそもと桂太郎議員、北井宏昭議員、
ます晴太郎議員、田中洋次郎議員

【関東学院大学】 出石稔法学部長・法学部教授
木村乃法学部教授、釧持麻衣法学部准教授
藤代和孝経営企画部長
法学部学生15名

(4) 実施内容

県議会議員と大学生が四つのグループに分かれ、「どのようにしたら若者が政治・議会に関心を持つか」というテーマについて、KJ法を用いたグループワークを実施し、その結果を各グループの代表者から発表してもらった。

また、終了後に参加した学生からアンケートを徴取した。

(5) 参加した大学生からのアンケート結果の概要（詳細については【資料2】に記載）

※ 参加者、アンケート回答者共に15人

問 県議会や県議会議員について、興味や関心がありましたか。

- ・ 興味や関心はあった 8人
- ・ あまり興味や関心はなかった 7人

問 グループワークについて、上手くいったと思いますか。

- ・ 上手くいった 6人
- ・ 概ね上手くいった 9人

問 議員の意見や考えていることが理解できましたか。

- ・ 理解できた 11人
- ・ 概ね理解できた 4人

問 意見交換会（グループワーク）を通じて、県議会及び県議会議員に対する関心は高まりましたか。

- ・ 高まった 10人
- ・ 概ね高まった 3人 （無回答2人）

問 今後、同じような機会があれば、参加したいと思いますか。

- ・ 参加したいと思う 12人
- ・ どちらともいえない 1人 （無回答2人）

問 意見交換会（グループワーク）を通じて、選挙に行く気持ちや政治に参画したい気持ちは高まりましたか。

- ・ 高まった 12人
- ・ 概ね高まった 1人 （無回答2人）

（意見交換会（グループワーク）に対する主な自由意見）

- ・ 定期的にこのような場があれば、意識がもっと高まり定着すると思う。
- ・ （議員が）何をやる人なのか、人を知る、調べをしようと思った。
- ・ 自分に関わりのある話し合いであれば、また、参加したいと感じた。
- ・ 関心のなかった人が関心を持つきっかけになると感じた。次回、本当に関心のない人たち向けの意見交換会も面白いと思った。
- ・ 議員の方々について、少し堅苦しいイメージがあったけど、とても親しみやすく話してくださったので、色々な考えを知ることができた。
- ・ 議員の方の実際の雰囲気を知ることができ、関心を持ちやすくなった。
- ・ これまでの選挙のイメージとして、「投票しても、どうせ変わらない」と感じていたが、今回、直接、議員さんと話すことで、それらのイメージが変わった。
- ・ 議員さんはメディアで見かける遠い存在のイメージだったが、実際にお話しすると、私たちと似た意見を持っていることが分かって驚いた。
- ・ （議員の方と）お話しする中で、政治参加は、自分が思うより身近なところから始められることが分かったため、地域を知るところから始めたいと思った。
- ・ 議員の方々積極的に話を聴いてくださり、若者の声を聴こうとしている姿勢を見ることができた。
- ・ 実際に政治に関わる方と話すことができ、政治について身近に感じることもできた。

6 検討結果

県内の大学からの意見聴取及び「県議会議員と関東学院大学の大学生との意見交換会」の試行実施の結果を踏まえ、若者が地域や政治への関心や意欲を持てるように主権者教育を推進するため、新たに大学生を対象とした取組について検討した結果は、次のとおりである。

(1) 県議会議員と大学生との意見交換会について

県議会議員と大学生との意見交換会は、大学生が議員とディスカッションする中で交流を深め、県議会や県議会議員を身近に感じ、関心を持ってもらう大変有効な手法である。

また、今回、試行実施されたワークショップ形式は、大学生が意見を出しやすい雰囲気作りに適しており、議員との交流を促進し、県議会や議員の活動について理解を深める方策として適していると考えられる。

今回試行実施した関東学院大学をはじめ、他の県内大学においても、それぞれの大学に応じた意見交換の機会を設けることができるよう、引き続き取り組まれたい。

(2) 大学を会場とする「特別委員会・議会報告会」の開催について

「特別委員会・議会報告会」を大学構内で実施することは、大学生の参加を促す上でも有効であり、開催について理解を示している大学もある。

ただし、大学側と十分な期間を設けて調整を行うことを要するため、早い段階から実施時期、実施方法、テーマ等を検討する必要がある。

(3) インターンシップを活用した議会体験・議員との意見交換について

県議会の活動期間に合わせて実施するには、大学生の夏季休暇期間中である9月上旬から始まる第3回定例会（前半）に併せてインターンシップを実施し、その中で、議会の傍聴や議員と意見交換をする場を設けることが適当である。

(4) 議長等による議会・議員活動に関する出前講義の実施について

現在、関東学院大学法学部で実施している議長による出前講座は、県議会や議員の活動を理解してもらう上で大変有効であるが、さらに広げていくには、大学側との調整を丁寧に進める必要がある。

(5) 継続的な取組に向けた県内大学との連携について

今後、県内の大学と連携してこれらの取組を継続的かつ発展的に進めていくために、県議会と大学との間で連携協定を締結し、一層の相互理解・協力を図ることも有効であると考えられる。

県内の大学への意見聴取結果について

1 関東学院大学（意見交換会の打合せ等と合わせて随時実施）

(1) 大学生の地方議会や政治への関心の現状について

- ・ 政治と関わりのある学部はともかく、ほとんどの学生にとって、県議会及び県議会議員は遠い存在である。
- ・ 接する機会がないことや県議会議員に関する知識が少ないため、関心が薄い。

(2) 大学生に県議会・議員への関心・意欲を高めてもらうための取組について

ア 県議会議員と大学生との意見交換会について

- ・ 新たな取組を進めるにあたっては、地方政治や地方行政に関心のある学生（本学では法学部の学生）から始めるのがよいのではないか。
- ・ 単なる意見交換ではなく、一定のテーマを定めて、KJ法を用いたグループワークを議員と大学生が一緒に行う方法にした方が有効ではないか。
- ・ 関心・意欲を高めていくには、継続して行っていくことが大切である。

イ 大学を会場とする「特別委員会・議会報告会」について

- ・ 議会報告会を開催することは可能であるが、法学部だけでなく、大学全体の話であり、学長に相談した上で、検討していく必要がある。
- ・ 実際に開催するとなると、実施日（平日か土日か）、実施時間（授業中か授業終了後か）等、調整・検討をしなければならない。

ウ インターンシップを活用した議会体験・議員との意見交換について

- ・ インターンシップは、授業のない、大学の夏季休暇期間中に実施している。
- ・ その中で、議会を傍聴することや議員と意見交換することはよいと思う。

エ 議長等による議会・議員活動に関する大学での出前講義について

- ・ 既に、県知事との包括連携協定の中で、法学部において、議長による講義の時間を毎年設けている。

(3) 大学生向けの広報等の充実を図るための取組について

- ・ 学生向けの広報ツールとして、ホームページやYouTube等を利用している。

(4) 大学生の意見等を把握するための取組みについて

- ・ やり方によりいろいろであるが、一つのテーマを設定し、議員と学生が繰り返し議論し方策を練り上げていくといった形での本格的な実施であれば、相当の準備等が必要となる。

2 東海大学（令和6年10月28日に実施）

(1) 大学生の地方議会や政治への関心の現状について

- ・ 議会や議員に対する関心は薄いですが、議員になるキャリアを知ることが大事。落ちたら収入がゼロとか、落選したらどのようになるのかとか。そんなことも議会に興味をもつ事柄になるのではないか。

(2) 大学生に県議会・議員への関心・意欲を高めてもらうための取組について

ア 県議会議員と大学生との意見交換会について

- ・ 議員との意見交換会は、ワークショップ形式がよい。サークル、ゼミなどテーマが合えば実施可能だと思う。
- ・ eスポーツなども意見交換会に参加すれば、のちに真剣になって議論が弾むかもしれない。

- ・ゼミとタイアップする方法もある。
- ・短期的に集中的にやるのか長期的に継続していくかもビジョンも大事。
- ・興味ある教員を見つけてそこにアプローチをかけるのもあり。

イ 大学を会場とする「特別委員会・議会報告会」について

- ・学内の諸会議に諮る必要があるため、あらかじめ早い段階から相談・調整してもらう必要があるが、大学を会場として実施することは可能である。
- ・協力は惜しまないが、いかに学生を集めるかが課題になる。
- ・ゼミ、クラブに声をかける方法がいいだろう。
- ・議会ということになると全学生に呼び掛けるというよりも、政治経済学部、法学部の学生を中心に声をかけることが有効だろう。

ウ インターンシップを活用した議会体験・議員との意見交換について

- ・インターンシップは8月上旬から9月上旬まで実施しており、その時、行うのがよい。
- ・インターンシップの先に何があるのか、企業の場合はインターンシップで来た学生を採用の面でアドバンテージを与えたりしている。そういう部分を学生たちは期待しているところもある。

エ 議長等による議会・議員活動に関する大学での出前講義について

- ・そのようなことがあることが分かれば、授業のメニューとして選ぶこともできる。
- ・シラバスを組むのも半年前、来年の7月までに相談もらえれば組み込めることも可能である。

(3) 大学生向けの広報等の充実を図るための取組について

- ・大学側には、SNSや広報誌、オフィシャルホームページ、ポータルサイトはある。
- ・大学との共催イベントや、大学内で議会報告会を行う等の場合には活用いただいても良いかもしれないが、あまり効果として期待できない。
- ・政治的中立性を意識している学生はあまりいない。動画等を作成するとなればどうしても偏りが出るだろう。
- ・広報メディアクラブでは、FMや動画などを作成している。そのようなところとの連携も考えられる。
- ・学生全体というよりも、ターゲットを絞って周知する方がよい。

(4) 大学生の意見等を把握するための取組みについて

- ・県議会議員と学生との意見交換やワークショップなどにおいて、聞きたい事項をテーマにして実施すれば良いのではないかと。

3 横浜国立大学（令和6年10月28日に実施）

(1) 大学生の地方議会や政治への関心の現状について

- ・ 特に地方議会にはなかなか興味を示さない。政治参加の興味はない。
- ・ 住民票を実家から移していない学生が大半なので、投票権もここにはない状況ということもある。

(2) 大学生に県議会・議員への関心・意欲を高めてもらうための取組について

ア 県議会議員と大学生との意見交換会について

- ・ 学生と教員が一緒になって地域課題の解消の方策などを、ボードゲーム方式で探っていくプログラムを開発し授業で実施している。議員も参加して一緒に議論してもらえれば地方政治や議会への関心がより高まると思う。

イ 大学を会場とする「特別委員会・議会報告会」について

- ・ 学生に興味があればだと思いがなかなか集めるのは難しいと思う。
- ・ 教員がどれだけ興味があるかも必要だと思う。その教員からアプローチをかけてもらうのが一つの方法。

ウ インターンシップを活用した議会体験・議員との意見交換について

- ・ 進路を考える時期が早くなっている。2年あたりで進路が決まり、インターンシップは3年の夏に行っている。その時期にどれだけ議会、議員に興味を持つかだと思う。
- ・ いきなり政治家を目指す学生は、ほとんどいないので、公務員を志望する学生向けに、議会局の仕事のインターンをメインにして、その中で、議会傍聴や議員との意見交換などを盛り込むのが良いと思う。

エ 議長等による議会・議員活動に関する大学での出前講義について

- ・ 県知事との包括連携協定に基づき、知事や県職員による講義枠を設けているので、県担当所属との調整がつけば実施の余地がある。
- ・ 地域課題の実習の場としては、よろしいかと思う。
- ・ 議員ならこう変えられるという思いが伝わるような話をしてほしい。
- ・ 地域交流科目があり、公務員から社会を変えていくという思いの方が強い。それを首長、議員からの目線として考えるのもいいと思う。
- ・ 落選したらどうなるか、収入ゼロになると言う話は興味があると思う。

(3) 大学生向けの広報等の充実を図るための取組について

- ・ 利用できるとしたら学生向けのウェブ掲示板くらいである。

(4) 大学生の意見等を把握するための取組みについて

- ・ ワークショップを行っているが、機会があればそのワークショップに参加してもらえるといいのではないかな。
- ・ 今こんな課題がある、それを講義で上げてもらって、それについての意見交換をするのが現実的かもしれない。教員のなり手不足のテーマなら盛り上がるかもしれない。

4 神奈川大学（令和6年11月5日に実施）

(1) 大学生の地方議会や政治への関心の現状について

- ・ 議会に対する興味は正直に言ってほとんどないのが現状
- ・ 政治が自分事になっていない。自分がやらなくとも誰かがやって世の中動いていくだろうというのが根本にある。
- ・ 県議会や県議会議員に関する知識が少ない。
- ・ 大学生からではなく小学生・中学生から政治は大事であるということを教えていかなければいけないのではないか。大学生からでは遅すぎる感がある。

(2) 大学生に県議会・議員への関心・意欲を高めてもらうための取組について

ア 県議会議員と大学生との意見交換会について

- ・ eスポーツで議論したいかというのと、なかなかイメージが浮かばない。
- ・ 例えば、街づくりをテーマとして、議員だけではなく社会で活躍している人たちと座談会方式ということなら盛り上がるかもしれない。
- ・ 意見交換会を継続して実施し、少しずつ興味を持ってもらうことが大事である。

イ 大学を会場とする「特別委員会・議会報告会」について

- ・ 法学部自治行政学科があるが、ここに声をかけて何人か来るくらい。普通に呼びかけても10人集まるかどうかである。
- ・ 教授経由で接点を結んでいくしかない。

ウ インターンシップを活用した議会体験・議員との意見交換について

- ・ インターンシップは大学の夏季休暇期間中の9月上旬に実施するのがよい。
- ・ インターンシップの内容として、議員との意見交換はあるのかもしれない。

エ 議長等による議会・議員活動に関する大学での出前講義について

- ・ 強制的に授業にはめ込んでいく方法はあるかもしれない。
- ・ 社会で活躍している人に講義をやってもらう取組もあるのでそれに議員という枠なら可能かもしれない。
- ・ 本当に魅力的提案があればいいのだが。
- ・ 政治的中立性は非常にセンシティブであるので議会としてということなら受入れは可能。

(3) 大学生向けの広報等の充実を図るための取組について

- ・ 今は、ユーチューブやティックトックなどで情報を取ることがほとんどでありテレビは観ない。しかも長い動画は敬遠される。本当に興味があるものしか見ない時代。
- ・ 学生は、SNSについて、興味が湧くかどうか一瞬で判断する時代の今、時間が長い議会の動画等は恐らく全く見ないだろう。
- ・ おとなしいものではなく、振り切った動画を作れば目に留まる、どこまで議会側で振り切れるかということもこれからは考えていくべきでは。

(4) 大学生の意見等を把握するための取組みについて

- ・ 身近のことから身近なテーマで地道にやっていくしかないのではないか。
- ・ 座談会等で意見を吸い上げてもらって、その意見が少しでも政策・施策に反映されそのことを報告してくれると、そこで面白いと実感がわくかもしれない。

対象：意見交換会に参加した大学生 15 人

<政治や議員への関心について>

問1 今まで選挙に行ったことはありますか。

ア ある 14人 イ ない 1人

問2 令和5年4月の神奈川県議会議員選挙に行きましたか。※ 無回答1人

ア 行った 7人 イ 行かなかった 5人

ウ 投票権がなかった 2人

問3 神奈川県議会や神奈川県議会議員について、興味や関心がありましたか。

ア 大いに興味や関心があった 0人 イ 興味や関心はあった 8人

ウ あまり興味や関心はなかった 7人 エ どちらともいえない 0人

問4 問3について、その内容や理由を記載してください。

(「興味や関心があった方」と答えた方)

- ・ 大学で学習する中で関心を持つようになった。
- ・ 自分達の生活にどのようにつながっているのかを知りたかった。(2人)
- ・ かながわ選挙カレッジ生として、若者の選挙投票率を高めるための活動を行っていた。
- ・ どんな想いを持って仕事をしているのか気になっていた。(2人)
- ・ 政治家目線でのココロイキを知れたので興味深かった。
- ・ 就職先に県庁を考えていたので関心があった。

(「あまり興味や関心はなかった」「どちらともいえない」と答えた方) ※重複有

- ・ 県議会に興味はあったが、実際何をしているのか分からなかった。(4人)
- ・ 今まで投票権がなく意識することがなかった。
- ・ 県政に関する情報を得る機会が少なく実態がわからなかった。(2人)
- ・ 勉強する機会がなかった。

<意見交換会（グループワーク）について>

問5 グループワークについて、上手くいったと思いますか。

- ア 上手くいった 6人 イ 概ね上手くいった 9人
ウ あまり上手くいかなかった 0人 エ どちらともいえない 0人

問6 グループ員に自分の考えを伝えられましたか。

- ア 伝えられた 8人 イ 概ね伝えられた 5人
ウ あまり伝えられなかった 2人 エ どちらともいえない 0人

問7 議員の意見や考えていることが理解できましたか。

- ア 理解できた 11人 イ 概ね理解できた 4人
ウ あまり理解できなかった 0人 エ どちらともいえない 0人

問8 問5から問7について、上手くいった理由、上手くいかなかった理由などについて、自由に記載してください。（抜粋）

- ・ 普段、直接聞くことのできない議員の皆さんの意見と大学生の意見が別々であっても議員の皆さんの協力を得ながら、結び付けることができ、上手くいったと思う。
- ・ 議員の方から、自身の意見を素直に伝えられる雰囲気を感じられよかった。（3人）
- ・ 違う視点を持った方との話は楽しかった。
- ・ 立場の違いや考えの違いが人の数だけあると感じた。
- ・ 議員の方達と意見交換することで、これまで自分が考えつかなかった意見や話を聴くことができた。（2人）
- ・ 活発に議論をすることができ、違う考え方の意見を聴くことができ、新たな発見をすることができた。（2人）
- ・ 議員さんの声を聴くことができ、とても勉強になった。
- ・ 初めて聞く単語もあり、基礎知識のなさを感じるとともに、話についていけないときもあった。

問9 意見交換会（グループワーク）を通じて、県議会（政治）及び県議会議員に対する関心は高まりましたか。※無回答2人

ア 高まった 10人 イ 概ね高まった 3人

ウ あまり高まらなかった 0人 エ どちらともいえない 0人

問10 今後、同じような機会があれば、参加したいと思いますか。※無回答2人

ア 参加したいと思う 12人 イ 参加しないと思う 0人

ウ どちらともいえない 1人

問11 意見交換会（グループワーク）を通じて、選挙に行く気持ちや政治に参画したい気持ちは高まりましたか。※無回答2人

ア 高まった 12人 イ 概ね高まった 1人

ウ あまり高まらなかった 0人 エ どちらともいえない 0人

問12 問9から問11について、気持ちが（概ね）高まった理由、気持ちが高まらなかった理由、どちらともいえない理由などについて、自由に記載してください。

（「気持ちが（概ね）高まった理由」と答えた方）

- ・ 興味は高まったが、定期的にこのような場があれば、意識がもっと高まり定着すると思う。
- ・ （議員さんが）何をする人なのか、人を知る、調べることをしようと思った。
- ・ 自分に関わりのある話し合いであれば、また、参加したいと感じた。
- ・ 政治の内容を話せてワクワクしました。
- ・ 関心のなかった人が関心を持つきっかけになると感じた。次回、本当に関心のない人たち向けの意見交換会も面白いと思った。
- ・ 議員の方々について、少し堅苦しいイメージがあったけど、とても親しみやすく話してくださったので、色々な考えを知ることができた。
- ・ 議員の方の実際の雰囲気を知ることができ、関心を持ちやすくなった。
- ・ 実際の会話を重ねて、議員の人となりを知ることができた。
- ・ これまでの選挙のイメージとして、「投票しても、どうせ変わらない」と感じていたが、今回、直接、議員さんと話すことで、それらのイメージが変わった。
- ・ 議員さんはメディアで見かける遠い存在のイメージだったが、実際にお話しすると、私たちと似た意見を持っていることが分かって驚いた。
- ・ （議員の方と）お話しする中で、政治参加は、自分が思うより身近なところから始められることが分かったため、地域を知るところから始めたいと思った。
- ・ 議員の方々積極的に話を聴いてくださり、若者の声を聴こうとしている姿勢を見ることができた。

- ・ こういったグループワークにも真剣に参加してくれる議員の方がたくさんいることに正直驚いた。
- ・ 実際に政治に関わる方と話すことができ、政治について身近に感じることができた。(2人)
- ・ どこかかけはなれたような存在だと思っていましたが、実際にお話しすることができてイメージのようなものが変わりました。

問 13 今回の意見交換会の開催など、県議会では、若者（大学生）が県議会や県議会議員に対する関心や興味を高める取組みを検討しており、具体的取組みなどについて、ご意見などを聴かせてください。

- ・ 意見交換会を増やす（長く続ける）といいと思う。(4人)
- ・ デジタル上でもよいので意見交換会みたいな場を作る。
- ・ 違うテーマの意見交換もしてみたい。
- ・ 実際に（議員と）話をする機会が関心につながるので意見交換会の主催が重要だと思う。
- ・ 議員の方々が身近に感じられるような取組が必要だと思います。
- ・ 直接、県議会や県議会議員の主張やお話を聴く機会を増やせば、若者が抱く政治への偏見などが解消され、関心や興味を高めるきっかけになるのではないかと考える。
- ・ 学校で投票できたり、党の考え方が詳しく知ることができる授業があればいいなと思っています。
- ・ 県議会議員と小学生から高校生までとの意見交換会（の実施）
- ・ 県議会の様子等を学校等で広めるなど
- ・ 大学の講義で講演していただく、議員から直接話を聴く機会があるだけでも、開かれた議会を感じることができると考えます。